

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月1日

事業所名 めばえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11			
	2	職員の配置数は適切である	11		利用児数に対して十分な配置ができています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	2	環境設定をしている。 運動時や食事時など場面に合わせて空間分けをしている。	フロア内に段差があるので利用児が移動する際には安全面への配慮が必要となるので見守り、声かけを行っています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	1	業務を振り返り、全体で改善しているようにしている。	各職員が目標、目的を持ち取り組み。日々振りかえりを行っています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9			ホームページで公表し、アンケートで得た保護者の意向を職員間で共有しています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2	ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	2		今後検討していきたいです。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10			外部講師の研修や症例検討を定期的に行い質の向上を図っています。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	1	言語聴覚士等の検査により評価をしている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	11		毎月のプログラムを職員全員で立案している。	毎日のプログラムの計画をたてて多職種で話し合いを行っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		プログラム作成時にバランスよく作っている。	プログラムの内容を毎月職員間で話し合い、固定化しないように充実できるように検討しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	11		個々の状況に応じて個別と集団での活動を実施している。	言語聴覚士、作業療法士、保育士、児童指導員が情報共有しながら同じ目標をもって支援できるよう症例検討を重ねながら目標設定を行っています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	1	毎朝のミーティングで情報共有している。	毎朝のミーティングを継続していきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	3	気になった事象があれば都度情報共有している。	翌日に持ち越すことがあるので可能な限り、その日に情報共有していきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	1	症例検討を適時実施している。	記録の記入と振り返りを継続していきます。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	1		基本的な活動を含め多角的な視点から評価し支援できるよう取り組んでいきます。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		管理者・児童発達支援管理責任者が参画している。	担当者会議に参加し、他事業所や保護者、各関係機関との連携を図っていきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8			送迎時は2人体制で行い、安全に送迎できるように取り組んでいます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2		現在医療的ケア児の利用がないが、必要に応じて連携した支援が行えるよう情報収集を行っていきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8			就学時に支援内容を書面で情報共有している。今後も継続して取り組んでいきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		6		現在学校卒業をする利用児がいらないが、今後必要に応じて情報共有できるシステム作りを行っていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	言語聴覚士による研修を実施。	他事業所との交流を図り意見交換等を行っていきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4		現在交流はないが今後検討していきたいです。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	10			参画はできていないが、事業所の訪問・見学会には参加させていただいた。今後も参加していきたいです。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1		
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8			ペアレント・トレーニングは行っていないが、相談には随時対応させていただいている。家族支援を充実させていきたいです。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	4		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9			保護者会はないので今後は検討していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11		SNSやその日の様子を写真でお伝えしている。	
	35	個人情報に十分注意している	11			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	3		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		毎月避難訓練をしている。	保護者にもわかりやすい方法で避難訓練や訓練内容をお知らせしていきたいです。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	3		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			